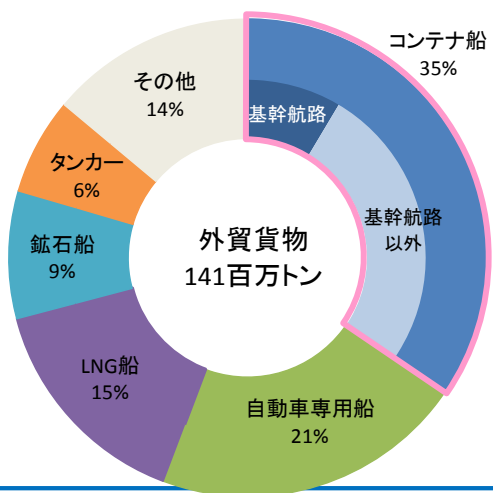


- 名古屋港における外貿貨物(1.4億トン)のうち、35%の貨物はコンテナ船を利用して取り扱われている
- 大型のコンテナ船が就航する北米・欧州向けの航路(基幹航路)に加え、中国航路、東南アジア航路などが就航しており、名古屋港では76便/週が就航している。(H26.4現在)
- 飛島ふ頭南側コンテナターミナルは、国内最大級の水深16m岸壁を有し、基幹航路が就航している
- また、飛島ふ頭地区において、岸壁整備後新たに物流センターや配送センターが立地した

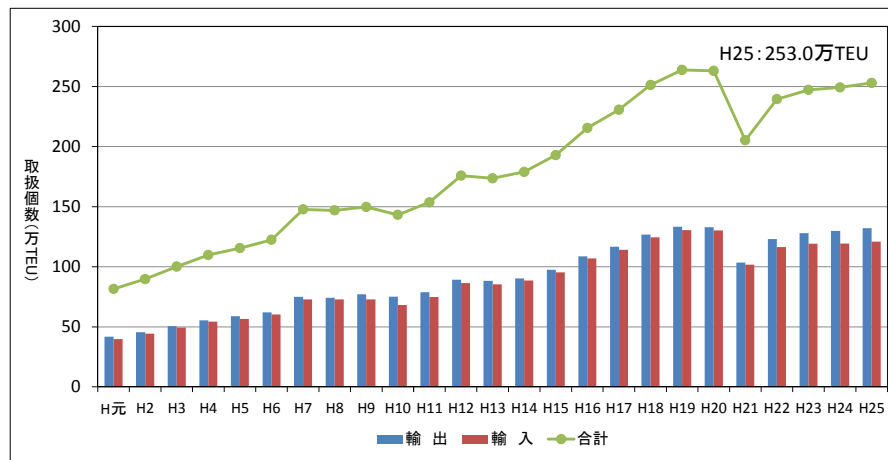
《利用船舶別外貿貨物の割合 平成25年》



■ 基幹航路に就航する大型船
一度に8千個以上のコンテナを輸送することが可能で満載での必要水深は16m



《名古屋港におけるコンテナ取扱個数の推移》



■ コンテナ輸送

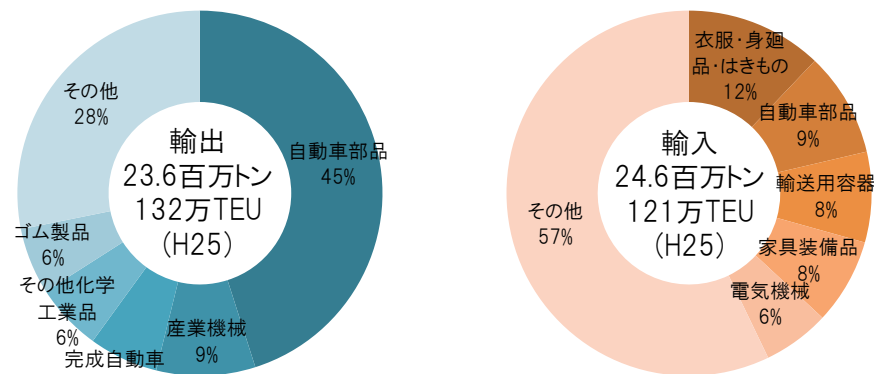
コンテナという鉄の箱に様々な貨物を入れて運ぶ輸送方法であり、昭和40年代に海上コンテナの国際規格が定められて以降、荷役時間の短縮、海上輸送時間の短縮、陸上輸送の簡素化等による定時性・定期性・安全性・確実性の優位性から取扱量が飛躍的に増大した。

《ガントリークレーンによる荷役》

《トレーラーによるコンテナ輸送》



《名古屋港におけるコンテナ貨物の出入別取扱品目》



(資料:名古屋港統計年報)

注: TEU (twenty-foot equivalent unit): 国際標準規格 (ISO規格) の 20 フィートコンテナを1とし、40 フィートコンテナを2として計算する単位

コンテナ船の大型化、コンテナ貨物取扱量の増加、大規模地震への対応を目的として岸壁、航路・泊地、ふ頭用地などの整備を実施する

【事業の概要】

- ・ 整備施設： 岸壁(水深16m)(耐震)
東航路(水深16m)
泊地(水深16m)
航路・泊地(水深16m)
ふ頭用地
道路(改良)
上物
- ・ 事業期間：平成14～28年度
- ・ 事業費： 708億円

